

# デイリー・ジーザス・ニュース #242

## 受難週：日曜日...歓呼と賛美の日

子馬がイエスのために準備される

マルコ 11. 1-7 (並行聖書：マタイ 21. 1-7、ルカ 19. 29-34、ヨハネ 12. 12)

その翌日、祭りに集まっていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムへ向かっているという知らせを聞いた。(マルコ11:1) 彼らがエルサレムに近づき、オリーブ山のベテパゲとベタニアに着いたとき、イエスは弟子二人を遣わして言われた。

「あなたの前の村に行きなさい。そこに入るとすぐに、ろばと子ろばがいます。<sup>M</sup>はそこに結ばれた誰も乗ったことのない<sup>MT</sup>に彼女も同乗。<sup>MT</sup>それらを解いてここに持って来なさい。3 もし誰かがあなたに「なぜそんなことをするのですか？」と尋ねたら、「主は<sup>MT</sup>、<sup>M</sup>、そしてすぐにここへ送り返します。」

これは預言者を通して言われたことが成就するためであった。

「娘シオンに告げよ。  
『見よ、あなたの王があなたのところに来る。  
優しく、ろばに乗って。  
ろばの子、子ろばに乗って。』」 (ゼカリヤ書 9:9)

4 <sup>M</sup>彼らは出かけて行って、イエスが言われたとおりに見つけました。<sup>M</sup>ろばが戸口につながれたまま、外の通りに立っていました。彼らがそれを解くと、5 そこに立っていた人々が尋ねました。「あの子ろばを解いて、何をしているのですか。」 6 彼らはイエスが言われたとおりに答えました。L 「主がお入り用なのです。」 そして人々は彼らを解放した。

7 そこで彼らはろば<sup>MT</sup>と子ろば<sup>M</sup>をイエスのところに連れてきて、その上に自分たちの上着をかけ、イエスをそれに乗せた。するとイエスはそれに乗られた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

### コンテキストダイジェスト

位置	エルサレム郊外のベタニア
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	A. 日曜日：歓呼と賛美の日
タイトル	1. 子馬がイエスのために準備される

コメント：

## デイリー・ジーザス・ニュース #242

今日の朗読は、イエスの生涯における第8番目の主要な段階である「受難週」を形作った驚くべき出来事の物語の始まりです。すべては「枝の主日」に始まりました。

(「聖枝祭」と「受難週」という用語は新約聖書では使用されていませんが、教会の歴史の初期に登場し、1000年以上にわたってキリスト教の語彙の一部として定着しています。)

受難週の各日に捧げられる福音の内容は、週が進むにつれて、量も重要性も徐々に増していきます。ここは、イエスを知る私たちの知識の「至聖所」です。

ユダヤ教の考えでは「週の初めの日」である日曜日に、イエスはメシアとしてエルサレムに正式に入城しました。今日の朗読は、イエスが大勢の群衆の歓声の中、町に入城した子ろばの準備に焦点を当てています。イエスが乗った動物の種類は、一見ありふれた些細なことのように思えるかもしれませんが、四福音書記者全員がその重要性について様々な側面を指摘しています。ここではその中でも最も重要な点を挙げます。

まず、子馬に乗ることの重要性はゼカリヤの預言で指摘されています。イエスはダビデの王として来られました。神はイエスが永遠の王国を永遠に統治すると約束されました(サムエル記下7章13節)。イエスは「**子馬に乗って、静かに...**」来られました。旧約聖書の文化では、敵と戦いに赴く征服王は馬に乗りました(これはヨハネの黙示録におけるイエスの姿です)。しかし、平和のうちに臣民のもとに来る王は子馬に乗りました。イエスは、平和のうちにメシアとして王位を主張するために、ご自身の王都エルサレムに入城されたのです。

第二に、イエスはこれまで誰も乗ったことのない子ろばに乗りました。これは、動物でさえ感じ取ることのできるイエスの力と権威を物語っています。なぜなら、子ろばは乗り手に従うように訓練されたことがなかったからです。口バはおとなしく従順な性格で知られているわけではありません。しかし、この子ろばは初めて乗られたにもかかわらず、イエスに謙虚に従いました。風、海、波、パン、人体、イエスの創造物すべては、この子ろばのようにイエスの権威を知り、従いました。

さらに、この子馬はこれまで一度も乗られたことがなかったため、イエスにのみ従順と服従を捧げました。飼い主は、この子馬がイエスのみのものであることを讃え、二度と乗らせなかったに違いありません。これは、神のみに完全に、そして完全に属すること、すなわち聖性の美しい象徴です。子馬がイエスのみにのみ属していたように、イエスは父の御心に完全に、そして完全に従順でした。

「主がお求めになる」という重要な表現は、ルカが物語の中で強調するために二度目に用いており、深い意味を秘めています。受難週の出来事は、確かに私たちの利益のためにイエスが耐え忍ばれたものですが、最終的には神ご自身の義と道徳的清さの要求を満たすために行われたのです。

イエスの死は、神がご自身の完全性を求める条件を満たすために必要でした。それは、私たちの墮落した有限の知性では到底理解できないものです。イエスの死は、神がそれを確実に起こすために必要だったからこそ起こったのです。

## デイリー・ジーザス・ニュース #242

父は、長子の姿に似た大家族を得るために、御子の死を必要としました。御子は、完全な花嫁を得るために、死を必要としました。聖霊は、アダムの子らの中に永遠に住まう聖なる神殿を聖別するために、イエスの死を必要としました。三位一体はイエスの死を必要としました。つまり、イエスはこの子馬を必要としたのです。

神は必要なものを自ら備えてくださいます。イエスが神の子、メシアとして安らかに乗り、聖都に入られるために、これまで誰も乗ったことのない子馬を準備し、そのタイミングを計ったことは、受難週の間を実現した何百もの細部にわたる完璧な準備の最初のものでした。主が必要なものは常に備えられます。

応用：

私たちが言及した子馬のそれぞれの側面が、イエス様との関係においてあなた自身にどのように直接関係しているかを考えてみましょう。

人生で何を望むか、何が必要だと思うかは、実際には重要ではありません。問題は、主イエスがご自身の目的を成し遂げるために、あなたの中で、そしてあなたを通して何をなさる必要があるかということです。

これはきっと神が備えてくださるでしょう。あなたの役割は、子馬のように、イエスにひたすら献身することです。どのようにそれを成し遂げますか？